

神奈川県キャンプ協会 (PACK)

Prefectural Association of Camping, Kanagawa



NEWS

No.3

from : North

East

West

South

平成23年2月7日発行

小林新治朗会長 画による 新春のあいさつ



ストンアート（石絵）

新しい年を迎えて

神奈川県キャンプ協会 (PACK)
理事長 鈴木秀雄
(関東学院大学教授、Ph. D.)

新しい年を迎えるにあたり、会員の皆さん、ご健勝のうちに過ぎることと拝察いたします。

今年は卯年（※本協会長の巻頭石絵御覧ください）です。皆さんのご活躍（飛躍=グラン・ジュテ）を心からお祈りしています。

さて、ますます先の見えない混迷の時代ですが、このような時にこそ、信念を持って誠実に生きながら自身を高めに誇り、芥川賞作家で禅僧である玄侑宗久氏の言のごとく、「なりゆき」を決然と生きることに尽きると思います。

野外活動もまた、十分な準備や計画をしても思い通りにはいきません。天候一つとっても人の力の限界（微小さ）がそこにはあります。だからこそ野外では常に最善の努力をしながらも、なりゆきに沿って活動し生活していく中で、人との融和や自然との調和が必然的に求められてきます。そこに野外活動の大きな意味と意義が存在するのでしょうか。

また、本年も野外活動の新たな魅力を、一人ひとりが感じ取り、その思いを日常生活に生かしていく日々の暮らしを求めていきましょう。日々に寄り添う、掛け替えのない“とっておきの”楽しさ・おもしろさを求めて、豊かな“活動”、“生活”、“生き方”を紡ぎ出すこそコレクリエーションに他なりませんが、自身のコレクリエーションの一つの領域として野外活動を活用していく年にしていきたいものです。

新しい年を迎えると共に、直ぐに新年度もやってきますが、本年度最後の事業として、ご案内の通り『野外料理を楽しもう』を横浜市三ツ沢青少年野外活動センターにて開催します。皆さんの御参加をお待ちしています。野外の料理を楽しむだけでなく五感を刺激する楽しいプログラムも用意しております。

本年多くの会員の皆さんのご支援とご協力を願っています。

Contents

会長によるストンアート（石絵）	1	「自然活動の安全と山の歌のひもとき」	
新しい年を迎えて	1	（トークショー） 3 · 4	
野外料理を楽しもう	2	編集後記	4

野外料理を楽しもう

おいしい料理を作りたい人、料理の腕を磨きたい人、美味しい料理を食べたい人
美味しい料理で心を癒し、癒しをひきだす五感を磨こう
お誘いあわせてご参加下さい

開催日：平成23年3月5日（土）小雨決行

開催時間：午前10時から午後2時（受付は午前9時30分から）

会場：横浜市三ツ沢青少年野外活動センター・野外炊事場
住所：横浜市神奈川区三ツ沢西町3-1
電話：045-314-7726

参加費：県会員300円、NCAJ会員並びに中学生以下400円、
一般並びに高校生以上500円
(参加費には保険代含む)

持ち物：野外活動に適した服装・持ち物・軍手。
特に防寒に充分配慮してください。

主催：神奈川県キャンプ協会

後援：NPO法人神奈川県野外活動協会

駐車場なし：公共機関をご利用下さい



交通手段：JR、京浜急行線、相鉄線、横浜市営地下鉄線横浜駅西口下車
横浜市営バス
(34・35・38・44・50・81・83・87・114系統)にて
相鉄バス(1・5・7・10・13系統)にて
『三ツ沢総合グランド入り口』下車 徒歩6分
：横浜市営地下鉄「三ツ沢上町駅」下車 徒歩15分

事前申し込みが必要です。

申し込み締め切り 2月21日(月)

申し込み先：神奈川県キャンプ協会事務局

氏名・連絡先電話番号・団体名・県会員・NCAJ会員・一般
等記載してFAX(0465)73-8662で申し込んでください

問い合わせ先：神奈川県キャンプ協会事務局

〒250-0123 神奈川県南足柄市中沼305-1

TEL・FAX (0465) 73-8662

当日の連絡先 090-1104-9954(高野)

「自然活動の安全と山の歌のひもとき」（トークショー）

主催：神奈川県キャンプ協会（PACK）

日時：平成22年11月20日（土）18:00～19:30

会場：横浜市開港記念館

講演者：「山賊の歌」作曲者 小島 裕嘉氏（元日本赤十字社神奈川県支部事業部長）

「一人の山男」作詞／作曲者 小林 新治朗氏（神奈川県キャンプ協会会長）

司会：鈴木 秀雄氏（神奈川県キャンプ協会理事長）

以下は、野外活動の安全を願う視点で山の歌の秘密をひもとくトークショーの内容です。

鈴木理事長：「山賊の歌」作曲者的小島裕嘉氏と「一人の山男」作詞／作曲者的小林新治朗氏が語る野外活動の安全と山の歌ひもときのトークショーを始めます。

本日のトークショーの「山賊の歌」、「一人の山男」の歌は1967年に山中湖で開催された日本キャンプ協会主催の「第1回全国キャンプ指導者講習会」のなかでも盛んに唄われた歌です。本日は、自然活動の安全を願う視点と山の歌の作曲の秘密をひもとくトークショーです。「野外活動の安全」、「山の歌のひもとき」としてお二人から貴重なお話をお聞かせいただきます。

最初に、小島さんからお話を伺います。

小 島 氏：私は、高校・大学時代から赤十字で手伝いをしておりました。その頃、お手伝いしたあるキャンプで「山賊の歌」ができました。そのキャンプでは、山賊が出てくる紙芝居を利用して、人形劇をすることになりました、その時に、やはり歌があった方が盛り上がるのではと思い、歌を作りました。私が20歳の頃の話です。



鈴木理事長：「山賊の歌」にまつわる特別なお話は、何かございますか。

小 島 氏：「ヤッホーホーホ～！」「ヤッホーホーホ～！」と追いかけるように歌うことで、子どもたちも盛り上がりました。また別の国際キャンプでは、外国人とのキャンプの際でも、先に聞こえる「ヤッホーホーホ～！」を追いかけ(フーガ；fuga)、真似することで日本語がわからなくとも歌えました。

鈴木理事長：キャンプのお話がありましたが、野外活動の安全を願う視点では小島さんのご経験から、生活技術（間接自然活動）や活動技術（直接自然活動）を含めて何かお話をいただけますか。

小 島 氏：今回の野外活動の安全というテーマですが、よく外国で重要視されることに「集団生活の成立を危うくする3要素」があります。それらは衣食住の野外活動のなかで①事故・ケガ、②人間関係のトラブル（喧嘩・宗教などの精神面のトラブル）、③紛失・盗難、に関する事柄です。②のトラブルでは、国旗の取り扱いも注意が必要です。また子どもたちの中にはキャンプを楽しめない子もありますので、そのような子どもを気遣う必要があります。そして外国では、道徳は生活のなかで習うという面もあります。また地域によっては3分の2の子どもしか学校へ通っていない地域もあり、赤十字では人道と博愛というスローガンのもと活動を行ってきています。

鈴木理事長：それではここで、『山賊の歌』を一度皆さんで歌うこととしましょう。

～ 『山賊の歌』合唱 ～



鈴木理事長：次の曲になりますが、さて、「一人の山男」の歌は、どのようにして誕生したのでしょうか。小林会長から、先ず、作曲した経緯をお話ししていただきましょう。

小 林 会 長：「一人の山男」は、私が19歳のときに作った曲です。

高校時代に家を飛び出し、山に登り、作った曲です。その頃、私は憧れの

小娘さんがおりましたが声を掛けられませんでした。その時の切ない恋の気持ちと、家を出てきた孤独など複雑な思いを持った気持ちからこの作品が生まれました。

鈴木理事長：歌詞にどのような気持ちや思いが感じられますか。ご自身は、今、振り返られて、どのようにお感じになられますか。

小 林 会 長：「タバコの煙がただ一筋」などの歌詞は、当時まだ少年であった自分には、成人の男性への憧れのようなものがあったように思います。

鈴木理事長：小林会長にとって山には、どのような意味合いや思いがあるのですか。

小林会長：「一人の山男」は、山との対話のなかで生まれた曲です。大学卒業後、神奈川県の青少年育成や県内のキャンプ場の開設・運営に深く関わりました。その時にもいつも山を歩いたことを思い出します。

また、子どもたちともキャンプに出かけましたが、やはり山との対話は情緒面の成長にも深く関わるよう思います。

鈴木理事長：そのほかに、山に関わるエピソードは何かありますか。

小林会長：司馬遼太郎さんを追っかけていた時分に、「自然を愛する者は人をも愛する」という言葉に出会いました。自然を愛する美学が、山を登ることにはあるように思います。またこうした私の山への想いは、冒険家、長谷川恒夫さんとの出会いによる子どもたちとのスキーや雪遊びのちびっ子キャンプ活動や行政で関わった山のキャンプ場の設立などに自然と結びついていきました。

キャンプ場の設立については、子どもたちの野外活動の場として、視察に来た中国の視察団と交流し、その後吉林省に神奈川のキャンプ場を参考にしてキャンプ場を完成させました。山での活動をこれまで多岐にわたり行つきましたが、その初めの頃に作った曲が「一人の山男」なのです。



鈴木理事長：自然を愛する者は人をも愛するという教えのなかで、野外の安全をお考えになったことを印象深くうかがうことができました。

「一人の山男」にまつわるお話は、他に何かございますか。

小林会長：「一人の山男」の4番の歌詞ですが、この曲を作つて40～50年の間に野外活動のなかでよく歌われるようになりましたが、自然と歌詞が変えられていたり、5番の歌詞が出来てきたりします。そのような5番では、「一人の山男」が作者の意図とは異なり、明るく元気になると言つた歌詞まであると聞いたことがあります。

鈴木理事長：それではここで、先ほどの「山賊の歌」と同じように、皆さんで『一人の山男』を歌うこととしましょう。

～ 『一人の山男』合唱 ～

鈴木理事長：貴重なお話と歌をありがとうございました。小島さんは昭和11年2月にお生まれで小林会長は昭和10年11月のお生まれ、そのお二人がそれぞれ若い時代に「山賊の歌」、「一人の山男」の曲をつくられ、その後、野外活動に多く関わってこられたことがよくわかりました。もう一度、トークショーを閉じる前に、みなさんで一緒に作曲者の思いを噛み締めながら、野外活動での安全を祈り、野外の歌を熱くひもとく思いで歌いましょう。

～ 『山賊の歌』『一人の山男』合唱 ～

鈴木理事長：小島さん、小林会長、本日は、貴重なお話しをして頂き、ありがとうございました。また、ここに参加された方々にも深く感謝いたします。この歌に込められた作者の思いを大切にしながら、このトークショーを終わることとします。

皆さん、有り難うございました。

【※このトークショーの記述には、会員 原 健一氏のご協力を頂きました。】



【編集後記】

「自然活動の安全と山の歌のひもとき」（トークショー）は
神奈川県キャンプ協会（P A C K）平成22年度主催事業 及び社団法人 日本キャンプ協会（N C A J）B U & C 事業 [日時：平成22年11月20日（土）18:00～19:30；場所：横浜市開港記念館 会議室9号]として開催されましたが、作曲者の心のなかの思いが、しっかりと曲の中に投影された「♪一人の山男♪」、そして多くの国々の人々が集つた時に野外における周囲の活動の安全と共に、異文化や異言語の人々が活動を共にする状況を一つに結びつけることに腐心しての曲作りとなった「♪山賊の歌♪」・・・

巷間では、一人の山男の別の歌詞も見られるようですが、山賊の歌の4番には、色濃くその歌の題名につながる歌詞が続いています。それらは：

『風が吹けば、波が立ち
波が立てば、船は沈む
ウッサー ウシシシー
沈んだ船は
ウッサー ウシシシー
おいらのものさ』
です。

今回の事業・BUCは、憂いと弾む心が表現された二つの歌の「ひもとき」をめぐるトークショーでした。
(理事長：鈴木秀雄)

神奈川県キャンプ協会 (PACK)

Prefectural Association of Camping, Kanagawa

N E W S No.3 February 7, 2011

from : North East West South

発 行 日 平成23年2月7日

発 行 神奈川県キャンプ協会 (PACK)

〒250-0123 神奈川県南足柄市中沼305-1

NPO法人野外体験学習研究所内

TEL・FAX 0465-73-8662

発 行 人 会 長 小林新治朗

編集責任者 理事長 鈴木 秀雄